

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 片山琴愛

## 1. はじめに

国際交流基金助成金を用いた、2016年2月27日から3月27日の4週間、オーストラリア、ビクトリア州メルボルンへの語学留学を報告します。

今回の留学の目的は、語学力の向上と異文化理解でした。グローバル化が進む中、ビジネスを行ってゆく上で英語は必要不可欠なものと言っても過言ではないと考えています。英語圏へ行き、全ての分野での能力向上を目指しました。また、3回生の1年間で学んだ異文化学習を基に、自らで体験しました。



## 2. 語学学校と英語

滞在した4週間、Discover English という語学学校へ通いました。この学校は一般英語学習クラスから、TOEIC、IELS といった英語能力テスト特化クラス、ビジネス英語、ケンブリッジ、バリスタコースなど、授業種類に幅があります。私は、一般英語クラスを選択しました。授業は、リスニング、リーディング、スピーキング、文法と4時間の授業に多くを学べるカリキュラムです。クラスメートと議題を英語で話し合うことが毎日行われました。

クラスメートは、日本、韓国、台湾、コロンビア、ブラジル、スペインから来ていました。日本人の多くは大学生でした。しかし、他の国からの生徒は、これからアメリカの大学へ行く生徒、既に大学を卒業した生徒、社会で働いたことのある生徒がいました。彼らは、この語学学校へ来て学び、英語をさらなるビジネス飛躍への手段と考えています。彼らから感じた勉学への励みには、感心し、私も真摯に取り組む気持ちになりました。

始めは、講師の英語を聞き取ることも話すことも十分に出来ず、授業へ不安を募らせていました。

しかし、徐々にそれらが出来る様になり、喜びと成長を感じられました。



(授業の様子)

英語を学ぶこととは、座学で文法を覚えて英文章を読み進めてゆく、そういうものだと思っていました。苦手意識が高く、英語を勉強する意義はただ受験の為、就職の為とさえ考えていました。しかし、実際はそうではありませんでした。

英語を話せることにより、より多くの人と会話ができます。これが大変嬉しく、充実感を得られるものだということを学びました。これが今回の留学での大きな収穫と言っても過言ではありません。会話が出来るということは、私の考えや思いを相手に伝えられ、又同時に私も相手のことを理解出来ます。普段日本語で会話をしていると、当たり前前でことに気を取られたりすることはなかったでしょう。大きな気づきを得られました。



(クラスメートとの写真)

### 3. メルボルンと異文化理解

今回、オーストラリアのメルボルンを選んだ理由は、オーストラリアの都市の中でも特に多くの人種が集う街だからです。中華街やギリシャ人街が中心街にあり、特に

日本、韓国、タイ、台湾といった各国の料理屋が軒を連ねていました。オーストラリアではかつて比較的簡単に永住権を取得できたそうです。クラスメートにコロンビア人が多くいたのは、出稼ぎに来ているからだと言学学校の先生に聞きました。こうしたことから、多民族都市へと進んでいったのだと思いました。

また、こうして多くの人オーストラリアへ進出してくる一方で忘れてはならないのが、オーストラリアの原住民族、アボリジニ。

アボリジニについて知るべく、私は王立植物園のアボリジナルヘリテージウォークに参加しました。

このツアーは、アボリジニがどのような植物を利用して、暮らしを支えていたのかということを中心として、アボリジニについて知る、というツアーです。

実際に王立植物園内を歩き、植物に触れました。日本でも耳にするユーカリ、ティーツリーなど様々な植物が薬として用いられていたことを教えてくれました。

このツアーを案内して下さった男性に1つの質問をしました。

「このツアーで一番に伝えたいことはなんですか？」

彼はこう答えました。

「Look after countries .

大地、植物との繋がりを大切に。共存を大切に。」



(ユーカリの葉を燃やしています。  
右図の木はカヌーに用います。ウォータープルーフの樹皮です。)



(ティーツリーの葉。独特なおいがあり、抗菌作用を持ちます。)

オーストラリアでは、多くの民族が暮らしています。それぞれの民族が互いを尊重しながら暮らしていると感じました。多々の国からの移民の街があります。アボリジニへの尊重を忘れず、また、文化を伝える活動も行なっています。こうした活動により、私はアボリジニについて学ぶことが出来ました。移民と原住民との共存、地球上の動物、人間、地球の共存。異文化理解の向う側に、理解を超えた共存の世界があるのだと思いました。

異文化理解は、現在の世界で重要視されるべきと私は考えています。私の常識と海を越えた国の人では、異なることがよくあるでしょう。そうした時、柔軟に彼らの考え方を理解し、また私たち日本人の考え方への認識も得られるよう努めることが必要です。本国にも、琉球王国やアイヌ民族といった独自の文化をもつ方々があります。また、日本独自の文化が多数あります。世界の異文化理解へ努めると共に、日本人として自国の文化を学ぶことへの重要性を感じました。日本は島国で、朝鮮や中国といった大陸からの文化との融合により独自の文化を开花させてきました。これは世界の文化の流れを見ても大変面白味があります。いざ、日本について話す時、私は流暢に日本を語る事が出来るでしょうか。実際、他の国の方に、日本の人口や宗教について質問されましたが、私は上手く言えませんでした。日本を知らないのです。世界には沢山の文化があります。多くの文化を学びつつ、日本という自国についても学びたいです。

#### 4. 最後に

英語を学ぶこと。異文化を理解する。

これらは深く関係しています。

英語を学び、異国の人と会話をすることにより、異文化理解への扉が開けます。

もしあなたが、英語が上手くない、共通に理解できる言語がない、異文化理解がないと思っているなら。壁があると思いませんか？そんな人でも、誰とでも打ち解けることが出来るとも感じました。

たとえ、人種や育ちが違っていても、私はオーストラリアで出会った人たちと、同じことで笑ったり、素敵な景色に感動したり、食べたものが美味しかったなどのことで思いを共有しました。そこに、出身国は関係ありません。それだけで嬉しく

感じました。



(Great Ocean Road. Twelve Apostles)

留学の準備から沢山の人から助言を頂き、充実した留学となりました。  
事前準備から私の語学留学が始まっていたように感じます。

留学に興味があるが、自分が出来るのかと不安に思う人もいるかもしれません。実は私も、出発の2週間前から緊張と不安でいっぱいでした。話せなかったらどうしよう、など不安や心配事は切りがありませんでした。しかし、1ヶ月の語学留学へ行って来て、本当に行ってよかったと思っています。英語なら、日本でも出来る。英語を話す予定がない。日本語だけで生きていける。そういう意見をもつ方もいるかもしれません。実際に数年前まで私も同意見でした。

しかし、私は、語学留学へ行き、英語学習への意気込みが変わりました。いつか出会う海外の方と話がしてみたいという気持ちから、語学の大切さを学びました。幅広く知識を身につけるべきだと自分の無知さを痛感しました。クラスメートから、自分の意見を素直に述べるのが大切だと感じました。異文化理解が面白く、日本についてももっと勉強したい気持ちが芽生えました。

私は以上のことを改めて学びました。  
行ってみた人、やってみた人にしか分からない発見があると私は思っています。  
やってみて感じることや思うことは個々それぞれです。  
しかしきっと、各々新しい発見があると思います。



これを読んだ方が、少しでも留学に興味を持って頂けたら幸いです。